

# 官報

號外 昭和十二年三月三十一日

## ○第七十回貴族院議事速記録第二十八號

昭和十二年三月三十日(火曜日)午後二時二十八分開議

### 議事日程 第二十九號

昭和十二年三月三十日  
午後二時開議

- 第一 海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 保健所法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第三 結核豫防法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)
- 第四 昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第五 會計検査院法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第六 日本銀行金買入法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第七 神戸商業大學移轉改築費ニ充用

シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

- 第八 辯護士法中改正法律案(衆第三號)(衆議院提出) 第一讀會
  - 第九 辯護士法中改正法律案(衆第四號)(衆議院提出) 第一讀會
  - 第十 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(衆第五號)(衆議院提出) 第一讀會
  - 第十一 護國共同組合法案(衆議院提出) 第一讀會
  - 第十二 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(衆第一號)(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
  - 第十三 明治神宮外苑擴張ニ關スル建議案(伯爵二荒芳徳君發議) 會議
- 議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマ  
〔角倉書記官朗讀〕  
昨二十九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十二年度歲入歲出總豫算案並昭和十二年度各特別會計歲入歲出豫算案豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

昭和十二年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)  
昭和十二年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)  
豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案  
昭和七年法律第一號中改正法律案  
昭和七年法律第十二號中改正法律案

日本銀行條例中改正法律案  
日本銀行參與會法廢止法律案  
東京農業教育專門學校創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

帝國ノ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ調整乃至移讓ニ伴ヒ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案  
小運送業法案  
日本通運株式會社法案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ回付セリ  
議院法中改正法律案  
同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案特別委員會

委員長 侯爵久我 通顯君  
副委員長 內藤 久寬君  
委員長 侯爵西郷 從徳君  
副委員長 子爵富小路隆直君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ  
保健所法案可決報告書  
結核豫防法中改正法律案可決報告書  
昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案可決報告書

會計検査院法中改正法律案可決報告書  
日本銀行金買入法中改正法律案可決報告書

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ヲ受領セリ  
海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案  
同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ  
辯護士法中改正法律案(衆第三號)  
辯護士法中改正法律案(衆第四號)  
大正十二年法律第五十二號中改正法律案  
護國共同組合法案

同日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ  
明治神宮神苑擴張ニ關スル建議案(伯爵二荒芳徳君發議)  
本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ  
國民健康保險法案可決報告書  
防空法案可決報告書

明治二十五年三月三十一日  
第三種郵便物認可

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○子爵池田政時君 此ノ際日程ヲ變更シ日程第十三ヲ第一ノ前ニ繰上ゲ、其ノ御審議ヲ進メラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス……政府ノ同意ヲ得マシタ

○議長(公爵近衛文麿君) 明治神宮神苑擴張ニ關スル建議案、伯爵二荒芳徳君發議、會議、發議者二荒伯爵ニ發言ヲ許シマス

(左ノ建議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ載録ス以下之ニ做ス)

明治神宮神苑擴張ニ關スル建議案  
右貴族院規則第六十九條ニ依リ提出候也  
昭和十二年三月二十九日

贊成者 發議者 伯爵二荒 芳徳

公爵鷹司 信輔 公爵島津 忠承  
公爵岩倉 具榮 侯爵中御門經恭  
侯爵佐佐木行忠 侯爵井上 三郎  
侯爵小村 捷治 伯爵柳原 義光  
伯爵樺山 愛輔 伯爵林 博太郎  
伯爵山田 英夫 伯爵溝口 直亮  
伯爵酒井 忠克 伯爵黒木 三次  
伯爵堀田 正恒 伯爵有馬 頼寧  
伯爵橋本 實斐 伯爵後藤 一藏

男爵坂本 俊篤 男爵大井 成元  
子爵冷泉 爲勇 男爵安保 清種  
松浦鎮次郎 子爵前田 利定  
子爵井上匡四郎 子爵渡邊 千冬  
子爵今城 定政 子爵豊岡 圭資  
子爵白川 資長 子爵池田 政時  
子爵清岡 長言 子爵野村 益三  
子爵西四辻公亮 子爵新庄 直知  
子爵立花 種忠 子爵谷 儀一  
子爵秋元 春朝 子爵水無瀬忠政  
子爵米田 國臣 子爵松平 乘統  
子爵米津 政賢 子爵伊東二郎丸  
子爵西尾 忠方 子爵井上 勝純  
子爵岡部 長景 子爵富小路隆直  
子爵秋田 重季 子爵戸澤 正己  
子爵織田 信恒 子爵高橋 是賢  
子爵實吉 純郎 子爵蒔田 廣城  
子爵松平 忠壽 子爵鍋島 直繩  
子爵安藤 信昭 子爵舟橋 清賢  
子爵松平 康春 子爵土岐 章  
子爵高木 正得 子爵大岡 忠綱  
子爵三島 通陽 子爵綾小路 護  
田中館愛橋 大島 健一  
眞野 文二 男爵阪谷 芳郎  
犬塚勝太郎 男爵松井慶四郎  
織田 萬 宇佐美勝夫  
男爵紀 俊秀 小野塚喜平次  
小幡 西吉 有吉 忠一  
中川 健藏 男爵千秋 季隆  
男爵北河原公平 小原 直  
出淵 勝次 後藤 文夫  
平生飢三郎 佐藤鐵太郎

内田 重成 岡 喜七郎  
男爵金子 有道 伊澤多喜男  
男爵今枝 直規 川村 竹治  
男爵小畑大太郎 男爵菊池 武夫  
松本 丞治 柴田善三郎  
男爵今園 國貞 男爵渡邊 汀  
男爵飯田精太郎 黒崎 定三  
男爵辻 太郎 男爵松尾 義夫  
男爵松岡 均平 男爵伊江 朝助  
男爵中村 謙一 男爵矢吹 省三  
男爵沖 貞男 男爵足立 豊  
男爵奥田 剛郎 男爵關 義壽  
男爵三須 精一 男爵長 基連  
男爵稻田 昌植 男爵松田 正之  
男爵園田 武彦 男爵橋元 正輝  
男爵渡邊 修二 男爵杉溪 由言  
男爵肝付 兼英 男爵加藤 成之  
男爵岩村 一木 男爵山根 健男  
男爵徳川 喜翰 男爵深尾隆太郎  
福永吉之助 竹越與三郎  
倉知 鐵吉 山岡萬之助  
三浦 新七 川上 親晴  
菅原 通敬 田所 美治  
青木 周三 西野 元  
八田 嘉明 次田大三郎  
大塚 惟精 小久保喜七  
樺山 資英 菊池 恭三  
中村圓一郎 阿部房次郎  
森 平兵衛 林 平四郎  
江口 定條 高島 順作  
三橋 彌 油井 徳藏  
細田安兵衛 松本勝太郎

濱口儀兵衛 岩田 宙造  
山本 米三 野村 徳七  
平沼 亮三 金成 通  
風間八左衛門 青木才次郎  
水野甚次郎 金岡又左衛門  
大谷 尊由 松岡 潤吉  
澁澤 金藏 瀨川彌右衛門  
下村 宏 小野寺長治郎  
深井 英五 男爵前田 男  
林 頼三郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿  
明治神宮神苑擴張ニ關スル建議  
明治天皇ヲ奉祀スル明治神宮神苑ノ現狀ヲ  
觀ルニ未タ不十分ナルモノ多シ是ヲ以テ  
明治神宮ノ内外苑ヲ擴張整備シ以テ彌  
國民景仰ノ念ヲ深カラシメ且國民體育向  
上ノ中心ヲラシムルノ緊切ナルヲ認ム  
仍テ政府ハ速ニ之カ具體的方策ヲ樹立シ  
實施セラレシムコトヲ望ム  
右建議ス

(伯爵二荒芳徳君演壇ニ登ル)  
○伯爵二荒芳徳君 明治神宮神苑擴張ニ關  
スル建議案ノ理由ニ付キマシテ申述ベマ  
ス、嚮ニ 明治天皇崩御遊バサレマスル  
ヤ、國ヲ擧ゲテ哀悼痛恨致シマシテ、赤子  
ハ資ヲ集メマシテ外苑ノ造成ヲ致シマシ  
テ、之ヲ神宮ニ獻納致シマシタノデアリマ  
ス、爾來二十餘年霜、明治天皇ノ御徳ヲ景  
仰シマス念ハ愈、厚ク、又 天皇ノ御遺訓ハ  
今日炳乎トシテ現代日本ノ精神の指導、指  
標ニ仰イデ居ルノデゴザイマス、之ヲ以テ

マシテ現代ニ於テ更ニ神苑ヲ擴張致シマシテ、一ツニハ大イニ神域ノ莊嚴ヲ増スヤウニ致シ、二ツニハ我々昭和時代ニ臣民ト致シテ、其ノ御徳ヲ益々仰ギ、尊信ノ微意ヲ表ハシタイト存ジマス譯デアリマス、更ニ之ニ加ヘマシテ益々敬神ノ心意ヲ修練致シマシテ、更ニ體育ノ鍛錬ヲモ致ス所トスルコトガ最モ今日ノ時代ニ於テ緊要デアラウト存スルノデゴザイマス、是レ即チ本案ヲ提出スル所以デゴザイマス、何卒皆様ノ御賛同ヲ仰ギタイト切ニ御願フスル次第デゴザイマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御發言ガナケレバ是ヨリ採決ヲ致シマス、本建議案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

(議員起立)  
○議長(公爵近衛文麿君) 全會一致ト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第一、海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、結城拓務大臣

(左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十二年三月二十九日

衆議院議長 富田幸次郎  
貴族院議長 公爵近衛文麿

海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

第一條 政府ハ海外移住組合聯合會ニ對スル貸付元利金ノ内七百二十五萬圓ノ債權ヲ同聯合會ノ主タル財産ヲ承繼シ

海外ニ於テ移住地ノ經營ヲ行フコトヲ目的トシテ設立セラルル株式會社ニ對スル現物出資ニ充ツルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ出資ヲ爲シタル會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

取締役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併並ニ解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

政府ハ取締役ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分又ハ定款ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三條 前條ノ會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益配當ヲ爲スコトヲ要セズ

前條ノ會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テハ

其ノ超過額ハ總株式ニ對スル利益配當ガ拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四ノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣(結城豐太郎君) 海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、本法律案ハ海外移住組合聯合會ガ現在行ッテ居リマス移住地ノ經營事業ヲ承繼シ、更ニ一層移住者ノ經濟的發展ヲ助長スル爲メ、新シク設立セラレマス株式會社ニ對シ、政府ガ同聯合會ニ貸付ケテ居リマス貸付元利金ノ内、七百二十五萬圓ノ債券ヲ現物出資セムトスルモノデアリマス、而シテ右會社ヲシテ、其ノ使命ヲ達成スル爲メ、政府ハ之ニ對シ必要ナル監督ヲ爲スコトト致シタノデアリマス、又移住地經營事業ノ性質ヲ考慮致シマシテ、政府所有ノ株式ニ對シテハ、配當上、劣後ノ取扱ヲスルコトト致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御質疑ガナケレバ、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
(角倉書記官朗讀)  
海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案特別委員

公爵島津 忠承君 子爵白川 資長君  
子爵保科 正昭君 男爵松岡 均平君  
男爵松田 正之君 各務 謙吉君  
平沼 亮三君 岩崎 清行君  
大谷 尊由君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、保健所法案、日程第三、結核豫防法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ハ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、委員長川村伯爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

保健所法案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日  
委員長 伯爵川村鐵太郎  
貴族院議長公爵近衛文麿

結核豫防法中改正法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日  
委員長 伯爵川村鐵太郎  
貴族院議長公爵近衛文麿

○伯爵川村鐵太郎君 只今議題トナリマシ

ク保健所法案及結核豫防法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過並結果ヲ御報告申上ゲマス、特別委員會ハ三月ノ二十七日ニ正副委員長ノ選舉ヲ終リマシテ、直チニ質疑ニ入ッタノデゴザイマス、引續キ三日間ニ互リマシテ最モ熱心ナル慎重審議ノ結果、三月二十九日ニ全員一致ヲ以テ兩案トモ原案通り可決致シマシタ次第アリマス、是ヨリ質問應答ノ中最モ重要ガト考ヘラレマスル點ヲ簡單ニ申上ゲテ見タイト思ヒマス、最モ此ノ質問ニ關係シマシタ所ノモノハ、我が國ノ衛生ノ現情デアリマシテ、質問ハ皆ソレカラ發セラレマシタモノデアリマスカラ、一應之ヲ申述ベテ置キタイト思ヒマス、我が國ノ衛生状態ハ頗ル憂慮ニ堪ヘヌモノガアリマス、内務大臣ノ諮問機關トシテハ中央衛生會ガアリ、保險衛生會ガアリ、又社會保險調查會ナルモノモ現存シテ居リマスシ、衛生法規モ、今日マデ幾多ノ衛生法規ヲ我我議シタノデアリマス、然ルニ拘リマセズ、其ノ半面ニ於テハ法定傳染病ノ中、赤痢、「チブス」ノ如キモノハ年々増加ノ趨勢ニア

ルノデアリマス、慢性傳染病ノ如キ、結核、花柳病ノ如キモノハ、ナカ／＼廣ク蔓延ラシテ居ル現情デアリマス、一方ニハ醫師ノ數ハ今日ハ五萬三千ヲ算ヘラレルノデアリマス、其ノ中ニ博士號ヲ持ッテ居ラレル方ガ數千ニ及ンデ居リ、其ノ中ニハ海外ニ名聲ヲ馳セラレテ居ル方々モアリマスシ、國家ガ功勞ヲ表彰スル爲ニ榮辭ヲ賜ヘッテ居ル方モアル、其ノ醫術ノ進歩ト云フモノハ、我が國ニ於テハ頗ル顯著ナル事實デアリマ

ス、然ルニモ拘リマセズ、斯クノ如キ衛生状態ハ洵ニ遺憾ニ考ヘラレル次第デアリマス、從テ質問應答ハ之ヲ中心ト致シテ行ハレタノデアリマス、即チ保健所ノ設置ヲ必要トスル理由ニ付テモ、保健所ニ要スル經費ノ點ニ付テモ、極メテ熱心ナル質疑ガアリマシタ、既存類似ノ施設、保健所等ノ關係、保健所ノ事業設備、職員等ニ付テモ質疑應答ガ交換サレタノデアリマス、政府ヨリモ色々答辯ガアリマシタガ、兎角治療機關ノ充實ヲ期シ、是等公衆衛生ノ問題ヲ徹底セシムル爲ニ、指導スルト云フコトヲ強調サレタノデアリマスルケレドモ、是ハ委員ノ満足ヲ得ル所ニ至リマセヌデシタ、一回ニ互リマシテ懇談會ヲ開キ、能ク政府ノ意ノアル所、又委員ノ心持モ政府ト能ク懇談致シマシタ結果、討論ニ入りマシタガ、討論ニ於キマシテハ各委員カラ陳述サレマシタ御意見ヲ綜合致シマスルト、保健衛生全般ニ關スル根本的考究ノ要ガアルコトヲ高調サレマシタ、而シテ從來ノ傳染病豫防施設ニ關シテノ既存ノ法令、方針ノ實行ニ付キ一層十分ナル注意ヲ要スルコトヲ強調サレマシタ、次ニ保健所ハ新シキ施設デアルカラ、此ノ國費、地方費ノ過重サレテ居ル今日、其ノ實行ニ當テハ十分ナル注意ヲ努力ヲ致シテ、其ノ效果ノ擧ルヤウニ努メラレタイト云フコトヲ陳述サレマシタ、政府ヨリ保健衛生全般ニ互ル組織的、根本的ノ研究ヲ十分致シテ、又既存ノ法規履行ニ付テハ大イニ力ヲ致スト云フコトノ御答辯ガアリマシタ、尙保健所ノ效果ヲ擧グルコトニ關シマシテハ、運

營上十分ノ注意、最善ノ努力ヲ拂フト云フ考デアルト云フコトノ御話ガアリマシタ、又其ノ普及ハ財政ノ都合モアルカラ、十分考慮シテ適當ニ處置スル旨ノ答辯ガゴザリマシタ、次ニ結核豫防法中改正法律案ニ付テ、委員ヨリ療養所ノ現情、患者ノ數、患者届出ニ關スル點、療養所國庫補助、汚染家屋物件消毒、患者ノ強制收容、療養所收容ノ期間、結核豫防ノ施設ヲ爲ス公益法人ニ對スル助成等ニ關係シマシテ質疑ガゴザイマシタ、政府ヨリソレ／＼答辯ガアリマシタガ、討論ニナリマシテカラ、治療、豫防ノ兩方面ノ完全ニ行ハレルヤウニ法規ノ徹底ニ當ラレタイト云フ希望ガアリマシタ、尙公益法人ニシテ結核豫防施設ヲ爲スモノニハ十分ノ注意ヲ補助ヲ加ヘラレタキ旨ヲ希望意見トシテ御話ガアリマシタ、尙委員會ニ於キマシテハ、保健衛生、行政機構ヲ統一強化サレタイト云フ意見モゴザイマシタ、政府ヨリ、是ハ一般行政機構ノ問題トシテ十分ニ考慮スルト云フ御答辯ガゴザイマシタ、本委員會ハ問題ノ重要性ニ鑑ミラレタト見エマシテ、委員ノ熱烈ナル御意見及非常ナル御勉強ヲ以テ終了致シタト云フコトヲ、一應私カラ申述ベテ置キマス、是デ、極ク簡單デゴザリマスケレドモ、私ノ報告ヲ終リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案全部委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案全部第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案、日程第五、會計検査院法中改正法律案、日程第六、日本

銀行金買入法中改正法律案、日程第七、神戶商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ四案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、委員長小村侯爵

昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 侯爵小村 捷治

貴族院議長公爵近衛文麿殿

會計検査院法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 侯爵小村 捷治

貴族院議長公爵近衛文麿殿

日本銀行金買入法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 侯爵小村 捷治

貴族院議長公爵近衛文麿殿

神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月二十九日

委員長 侯爵小村 捷治

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔侯爵小村捷治君演壇ニ登ル〕

○侯爵小村捷治君 御報告申上ゲマス、只今議題ニ上リマシタ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案外三件ノ法案ハ、昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外六件ノ特別委員會ニ重ネテ併託セラレマシテ、二十八日、二十九日兩日ニ互ツテ審議致シマシタ、以下各案ノ要旨竝ニ質疑應答ノ概要ヲ申述ベマス、先ツ昭和十二年度一般會計歳出ノ財源補填ノ公債追加發行案ハ、即チ赤字公債追加發行ヲ求メルモノデゴザイマシテ、限度ハ五百二十萬圓ト相成ツテ居リマス、委員ヨリ其ノ内譯ニ付テノ質疑ガアリマシテ、之ニ對シテ追加豫算金額ヨリ六百五十萬圓ダケ少クナツテ居ルノハ、其ノ額ダケ普通歳入カラ賄ヒ得ラル、カラダト云フ御答辯ガアリマシタ、又赤字公債ノ十二年度ニ於テ發行サレル總額ハドノ位ニナルカト云フ質問ニ對シマシテハ、一般會計ニ於テ八億二千二百萬圓、特別會計ニ於テ一億四千三百萬圓、合計九億六千五百萬圓ニナルト云フ御説明デゴザイマシタ、尙陸海軍ノ見合セニナリマシタ四千六百萬圓ハ、多分其ノ發行ハ必要ナカラウト云フ御説明ガゴザイマシタ、其ノ外、

交付公債ノ金額或ハ前途ノ見込等ニ付キマシテ御質疑ガアリマシタ、之ニ對シテハ交付金ノ額ハ五百十五萬圓、前途ノ見込ニ付テハ是ハ稅制確立、或ハ自然増收等ノ關係上、次年度迄ニ左程ノ増大ヲ見ナイヤウナ方法ヲ講ジ得ルダラウト云フ意味ノ御答辯ガゴザイマシタ、次ニ會計検査院法改正案ハ、輓近官廳事務ノ増大竝ニ財政運用ノ複雑ヲ加ヘマシタ爲ニ、現在ノ組織ヲ改正スルノ要ヲ感ジテ行ハレムトスルモノデゴザイマシテ、殊ニ滿洲ニ於ケル陸軍會計ニハ検査ヲ厲行スル必要ガ生ジマシタ結果ニ依ルモノデゴザイマシタ、其ノ要領ハ、現在ノ三部制ヲ四部制トシ、之ニ伴ヒ官吏ノ増員ヲ致ス案デゴザイマシタ、委員ヨリ新部下ノ組織竝ニ検査事務ノ増大ノ模様ニ關スル質疑ニ關シマシテ、例ハバ證憑書類ノ枚數ノ如キ、昭和五年ト昭和十年トヲ比較致シマスト、殆ド二倍ニ殖エテ居ルト云フヤウナ當局ノ説明ガゴザイマシタ、第三ニ日本銀行金買入法改正案ハ、近年同行ノ金買入額増加ト共ニ、政府ガ日銀ニ對シテ負擔スル債務モ亦増加致シマシタ爲メ、既ニ限度ノ擴張ヲ行ツトデゴザイマシタガ、金買入額ガ逐増シ、從ツテ政府ノ債務負擔額モ遞増シ、其ノ餘力乏シク相成リマシタ爲ニ、更ニ現在ノ二億圓ノ限度ヲ四億圓迄増加セムトスルモノデゴザイマシタ、同時ニ海外ヘノ支拂ニ要スル金ノ現送等ニ依ツテ、臨機日銀ヲシテ自ラ現送ヲ行ハシムル途ヲ開キ、且對外金賣却ノ利益ハ政府ニ納付セシメムトスルモノデゴザイマシタ、之ニ付キマシテハ從來日

銀ノ金買入模様、現在ノ所有高、將來金年産額ノ豫想、正貨準備ノ現況、本法ト金現送トノ關係、其ノ他ニ付テ質疑ガ行ハレマシタ、日銀ノ買入レマシタ金ノ高ハ、昭和九年度乃至十一年度ニ於キマシテ合計一億三十一萬「グラム」餘リデゴザイマシテ、其ノ價格ハ三億一千二百三十萬圓ト相成ツテ居リマス、之ヲ一取五圓ト致シマス貨幣法ニ依ル計算デハ一億三千三百七十五萬圓ト相成リマス、將來ノ金ノ産額ハ漸次増加シ、勿論一億圓以上ニ上ツテ來ルデアラウ、日銀ノ金準備ハ五億四千五百萬圓以上デ、時價ニ致シマスト十六億圓見當ニナル、又本法ト金現送トノ關係ニ關シマシテハ、金買入法ハ本來金ノ保有ヲ目的トシタガ、國債金融竝ニ爲替ノ現況ニ照シ、一部ヲ現送シテ國際決済ニ當レルコトトシタ、其ノ運用ヲ自然ナラシムル爲ニ、政府ガ國庫勘定ニ移ス迄モナク、大藏大臣ガ適宜日銀ヲシテ現送セシムルヤウニ命令デスル、又限度擴張ハ將來ノ見込ヲ付ケテ一舉ニ相當ナル數字ニスル必要ハナイカ、斯ウ云フ質疑ニ對シマシテハ、矢張り小刻ミデ行ク方ガ得策ダト云フ御答辯ガアリマシタ、最後ニ神戸商業大學移轉改築費ニ充當シタル金額ノ補填ニ關スル案ハ、昭和四年度乃至十年度ニ於ケル此ノ經費百三十二萬餘圓ハ、官立大學資金ヨリ一般會計ニ是ガ相當額ヲ繰入レ得ルモノデゴザイマシタガ、其ノ期限ヲ明年度迄延長シヨウトスルモノデゴザイマシタ、之ニ付キマシテモ官立大學資金ナルモノノ總額、或ハ其ノ返済方法等ニ付テ質疑應答ガ行ハ

レマシタ、斯クシテ討論ニ入り、全員一致贊成ノ意見ノ開陳ガゴザイマシテ可決トナリマシタ、右概略ナガラ御報告ヲ致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 採決ヲ致シマス、以上四案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 四案全部委員長ノ報告通リデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 四案全部第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第八、辯護士法中改正法律案、衆議院第三號、日程第九、辯護士法中改正法律案、衆議院第四號、日程第十、大正十二年法律第五十二號中改正法律案、衆議院第五號、衆議院提出、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

辯護士法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

辯護士法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

辯護士法中左ノ通改正ス  
第五條 左ニ掲グル者ハ辯護士タル資格ヲ有セズ  
一 皇室ニ對スル罪、犯人藏匿及證憑湮滅ノ罪、通貨偽造ノ罪、文書偽造ノ罪、有價證券偽造ノ罪、印章偽造ノ罪、偽證ノ罪、誣告ノ罪、竊盜及強盜ノ罪、詐欺及恐喝ノ罪並横領ノ罪ヲ犯シタル者

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

二 前號ニ掲ゲタル以外ノ罪ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

三 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者  
四 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者、本法ニ依リ除名セラレタル者又ハ辨護士法若ハ計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者ニシテ免官、免職、除名又ハ業務禁止後二年ヲ經過セザル者  
五 禁治産者又ハ準禁治産者  
附則  
本法ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

辯護士法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

辯護士法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

辯護士法中左ノ通改正ス  
第一條 帝國臣民ニシテ成年者タル者ハ辯護士タル資格ヲ有ス  
第三條 第一項中「試補」ヲ削ル  
第四條 中「前」一條ヲ「前條」ニ改ム  
第二十八條 削除  
第三十七條 削除  
第三十九條 第四號ヲ左ノ如ク改ム  
四 削除

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
第一章 總則  
第一條 護國共同組合ハ國民皆兵ノ本義

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
右本院提出案及送付候也  
昭和十二年三月二十九日  
衆議院議長 富田幸次郎

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

護國共同組合法案  
第一章 總則  
第一條 護國共同組合ハ國民皆兵ノ本義

ニ鑑ミ互助共同ニ依リ兵役義務履行ニ必要ナル家庭ノ經濟的準備ヲ整ヘ護國ノ精神ヲ振作スルヲ以テ目的トス

第二條 護國共同組合ハ法人トス

第三條 護國共同組合ノ名稱中ニハ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フヘシ

護國共同組合ニ非サレハ其ノ名稱中ニ護國共同組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第四條 護國共同組合ニハ所得稅、登録稅及印紙稅ヲ課セス又地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二章 設立

第五條 護國共同組合ノ地區ハ市區町村又ハ町村組合ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第六條 護國共同組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組合員トス但シ世帯主ニ非サル者又ハ法人モ組合員タルコトヲ得

第七條 護國共同組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ世帯主五十人以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第八條 護國共同組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタルトキニ成立ス

第九條 定款ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的

二 事業

三 名稱

四 地區

五 事務所ノ所在地

六 共同金ノ負擔及交付ニ關スル規定

七 役員及組合會ニ關スル規定

八 經理ニ關スル規定

九 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

十一 其ノ他組合ニ關スル重要ナル事項

第三章 事業

第十條 護國共同組合ハ陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタル者アルトキ組合員ニ對シ共同金ヲ交付シ家業及家事ノ援助ヲ爲シ其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル事業ヲ行フ

第十一條 共同金ハ左ニ掲クル者陸軍又ハ海軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタルトキ其ノ組合員ニ對シ之ヲ交付ス

一 組合員ト同一ノ家ニ屬スル者

二 組合員ト生計ヲ同クスル親族

三 組合員ト同一ノ家ニ屬シ且生計ヲ同クスル者

第十二條 共同金ハ普通共同金及特別共同金ノ二種トス

普通共同金ハ家庭ノ事情如何ニ拘ラス均一ノ割合ヲ以テ交付シ特別共同金ハ疾病、災害又ハ家庭ノ情況ニ因リ必要アル場合ニ於テ組合會ノ決議ニ依リ普通共同金ニ併セ交付スルモノトス

第十三條 護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ組合員ノ家業若ハ家事ノ援助又ハ物品ヲ以テ共同金ノ一部又ハ全部ニ代フルコトヲ得

第十四條 交付セラレタル共同金ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得

第十五條 護國共同組合ノ事業ニ必要ナル經費ハ組合員之ヲ負擔スルモノトス

前項ノ負擔ハ定款又ハ組合員ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 護國共同組合ハ必要アルトキハ定款又ハ組合會ノ決議ニ依リ物品ノ贖出又ハ勞力奉仕ヲ以テ贖金ノ一部又ハ全部ニ代ヘシムルコトヲ得

第十七條 護國共同組合ハ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムル組合員ニ對シ組合會ノ決議ニ依リ前條ニ依ル金品ノ贖出及勞力奉仕ヲ猶豫又ハ減免スルコトヲ得

第十八條 護國共同組合ハ現役ニ服セサル組合員又ハ現役ニ服セサル者ト同一

世帯内ニ在ル組合員ニ對シ其ノ故ヲ以テ特別ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十九條 護國共同組合ハ第十條ニ規定スル事業ノ外左記各號ニ關シ組合員ノ指導誘掖ニ努ムルモノトス

一 國民皆兵ノ本義ニ鑑ミ護國ノ精神ノ振作ニ努ムヘキコト

二 自強ノ精神ニ基キ兵役義務履行ニ伴フ家庭ニ於ケル經濟的準備ノ完整ニ努ムヘキコト

三 隣保相助ノ誼ヲ厚クシ組合ノ定ムル金品ノ贖出及勞力奉仕ハ組合ノ精神ニ鑑ミ進テ之ヲ爲スヘキコト

四 兵役義務者及其ノ家族ヲ敬愛シ其ノ名譽ヲ尊重スヘキコト

五 其ノ他組合ノ目的達成ニ必要ナル精神指導ヲ爲スヘキコト

第四章 役員

第二十條 護國共同組合ニ左ノ役員ヲ置キ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ際ニ於ケル役員ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

理事 若干名

監事 若干名

理事ハ組合長及副組合長各一名ヲ互選ス但シ副組合長ハ必要アル場合ニ於テハ其ノ數ヲ增加スルコトヲ得

役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス

役員ハ必要アル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非サル適當ナル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十一條 役員ハ名譽職トス  
第二十二條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ統轄ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理ス  
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合ノ事務ヲ執行ス  
監事ハ組合ノ事務ヲ監査ス

第二十三條 組合事務ノ執行ニ付テハ民法第四十四條第一項、第五十二條第二項及第五十五條ノ規定ヲ準用ス

第五章 組合會

第二十四條 護國共同組合ニ組合會ヲ置ク  
組合會ハ組合長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

理事及監事ハ何時ニテモ組合會ニ出席シ意見ヲ開陳スルコトヲ得  
第二十五條 組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

議員ノ定數及選任ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム  
議員ノ任期ハ二年トス

第二十六條 組合會議員ハ名譽職トス  
第二十七條 組合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長之ヲ召集ス  
第二十八條 組合會ハ左ニ掲クル事項ヲ議決ス

一 組合定款ノ改廢ヲ爲スコト  
二 年度收支豫算ヲ定ムルコト  
三 組合事業ノ報告及決算報告ヲ認定スルコト

四 財産ノ管理、處分及取得ニ關スルコト  
五 其ノ他本法ニ依リ組合會ノ權限ニ屬セシメタル事項又ハ組合長ニ於テ付議シタル事項

前項第一號ニ掲クル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス  
第二十九條 組合會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長故障アルトキハ副組合長又ハ其ノ他ノ理事議長ノ職務ヲ代理ス

第三十條 組合會ハ組合會議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ召集再度ニ及フモ尙半數ニ達セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合會ノ議事ハ出席議員ノ全員ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
第六章 經理  
第三十一條 護國共同組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十二條 組合事務費ハ毎年度組合員豫金ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス  
第三十三條 護國共同組合ハ基本金ヲ積立ツルコトヲ得  
第七章 解散  
第三十四條 護國共同組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生  
二 組合會ノ決議

三 組合ノ合併  
四 組合員カ三十人未滿ニ減シタルトキ

五 組合ノ破産  
組合ノ解散及合併ハ組合會議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行為ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 組合會ノ決議ニ因ル解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス  
第三十七條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十八條 民法第七十條ノ規定ハ護國共同組合ノ解散ニ之ヲ準用ス  
第八章 清算  
第三十九條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第四十條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ  
第四十一條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第四十二條 清算事務カ終リタルトキハ

清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ組合會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十三條 清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得  
第四十四條 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十五條 清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ  
第四十六條 清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第四十七條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ護國共同組合ノ清算ニ之ヲ準用ス  
第九章 監督  
第四十八條 護國共同組合ハ第一次ニ北海道廳長官及府縣知事、第二次ニ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣之ヲ監督ス

第四十九條 監督官廳ハ組合ニ對シ組合ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合事務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ組合ノ定款、細則、收支、豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 監督官廳ハ組合會ノ決議又ハ役員ノ行為カ適當ナラスト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解任シ又ハ議



員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前ニ本法第一條ニ掲グル目的ヲ  
以テ設立セラレタル組合ハ命令ノ定ムル  
所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス  
○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ特別委員  
ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

護國共同組合法案特別委員

侯爵大久保利武君 侯爵佐佐木行忠君  
子爵大河内輝耕君 大島 健一君  
男爵關 義壽君 藤沼 庄平君  
菊池 恭三君 石川 三郎君  
三木與吉郎君

○議長(公爵近衛文麿君) 暫時休憩ヲ致シ  
マス

午後三時四分休憩

午後六時二十五分開議

○議長(公爵近衛文麿君) 報告致サセマス

(角倉書記官朗讀)

本日海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付  
金ノ出資等ニ關スル法律案特別委員會ニ於  
テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 公爵島津 忠承君  
副委員長 子爵保科 正昭君

本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法  
案可決報告書

海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金  
ノ出資等ニ關スル法律案可決報告書

本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ  
帝國燃料興業株式會社法案  
人造石油製造事業法案

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開  
キマス、本日子爵大河内輝耕君ヨリ都合ニ

依リ護國共同組合法案特別委員辭任ノ申出  
ガゴザイマス、之ヲ許スコトニ御異議ハゴ  
ザイマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認  
メマス、其ノ補闕トシテ子爵野村益三君ヲ  
指名致マシス

○議長(公爵近衛文麿君) 本日衆議院ヨリ  
送付セラレマシタ政府提出ニ係ル帝國燃料

興業株式會社法案及人造石油製造事業法案  
ノ第一讀會ヲ此ノ際議事日程ニ追加シ、一  
括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマ  
セスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認  
メマス、商工次官

帝國燃料興業株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月三十日

衆議院議長 富田幸次郎  
貴族院議長公爵近衛文麿殿

帝國燃料興業株式會社法案

帝國燃料興業株式會社法案

第一章 總則

第一條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石  
油製造事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事  
業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社ト  
ス

第二條 帝國燃料興業株式會社ノ資本ハ  
一億圓トシ内五千萬圓ハ政府ノ出資ト  
ス

帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ  
受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第三條 帝國燃料興業株式會社ハ株金全  
額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコ  
トヲ得

第四條 帝國燃料興業株式會社ノ株金ノ  
第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下  
ルコトヲ得

第五條 帝國燃料興業株式會社ノ株式ハ  
記名式トシ政府、公共團體、帝國臣  
民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ  
業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資  
本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外  
國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限  
リ之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 帝國燃料興業株式會社ノ存立期  
間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ  
政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ  
得

第七條 帝國燃料興業株式會社ニ非ザル  
モノハ帝國燃料興業株式會社又ハ之ニ  
類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコト  
ヲ得ズ

第二章 役員

第八條 帝國燃料興業株式會社ニ總裁副  
總裁各一人、理事三人以上及監事二人  
以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ帝國燃料興業株式會社ヲ  
代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ業務  
ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ  
行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ帝國燃料  
興業株式會社ノ業務ヲ分掌ス  
監事ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ  
監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其  
ノ任期ヲ五年トス  
理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍  
ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ  
命ジ其ノ任期ハ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ  
選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職  
務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ  
政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ  
在ラズ

第十三章 營業

第十二條 帝國燃料興業株式會社ハ人造  
石油製造事業ニ對スル投資ヲ爲スモノ  
トス

帝國燃料興業株式會社ハ政府ノ認可ヲ  
受ケ前項ノ事業ノ外人造石油ノ製造又  
ハ販賣其ノ他本會社ノ目的達成上必要  
ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第四章 燃料興業債券

第十三條 帝國燃料興業株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得  
燃料興業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セス

第十四條 燃料興業債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ燃料興業債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 燃料興業債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十七條 燃料興業債券ノ所有者ハ帝國燃料興業株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十八條 帝國燃料興業株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ燃料興業債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊燃料興業債券ヲ償還スベシ

第五章 準備金

第十九條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及助成

第二十條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 帝國燃料興業株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十三條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十四條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ人造石油製造事業ノ振興上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ帝國燃料興業株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 帝國燃料興業株式會社ノ官ハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

帝國燃料興業株式會社監督官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得  
帝國燃料興業株式會社監督官ハ株主總

會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條 政府帝國燃料興業株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 帝國燃料興業株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十條 帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ第三營業年度迄ニ在リテハ年百分ノ四、第四營業年度以

降ニ在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ第十營業年度迄ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ第四營業年度以降每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル燃料興業債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先

ニ充ツベシ  
第十營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス  
前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條

帝國燃料興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超ユル利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條

帝國燃料興業株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅

及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間帝國燃料興業株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 罰則

第三十四條 帝國燃料興業株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第十三條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ヲ發行シタルトキ

四 第十八條ノ規定ニ違反シ燃料興業債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第三十五條 帝國燃料興業株式會社ノ總裁、副總裁及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國燃料興業株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十三條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第四十四條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

第四十五條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國燃料興業株式會社總裁ニ引渡スベシ

第四十七條 登錄稅法第六條第一項第十號中「又ハ東北興業債券」ヲ「東北興業債券又ハ燃料興業債券」ニ改ム

人造石油製造業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月三十日  
衆議院議長 富田幸次郎  
貴族院議長 公曾近衛文麿殿

式會社總裁ニ引渡スベシ

第四十七條 登錄稅法第六條第一項第十號中「又ハ東北興業債券」ヲ「東北興業債券又ハ燃料興業債券」ニ改ム

人造石油製造業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月三十日  
衆議院議長 富田幸次郎  
貴族院議長 公曾近衛文麿殿

人造石油製造業法案

第一條 本法ハ液體燃料ノ供給ヲ確保スル爲人造石油製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 人造石油製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ人造石油製造事業ノ範圍及許可ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半數以上及議決權ノ過半數方帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數方外國人

又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社（人造石油製造會社）ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

人造石油製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 人造石油製造會社ノ營ム人造石油製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第六條 人造石油製造會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間人造石油製造會社ニハ其ノ事業ニ對シ又ハ其ノ事業ニ屬スル資本金額、從業者、製造若ハ加工ノ用ニ供スル器具機械類、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

第八條 人造石油製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ

日ヨリ七年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第九條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル人造石油ニ付獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十一條 人造石油製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 人造石油製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ商法第二百條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必

要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 人造石油製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 人造石油製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

人造石油製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及財政ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證據ヲ携帶セシムベシ

必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ改善ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ製造ニ關スル特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 人造石油製造會社ハ其ノ所有スル人造石油ヲ政府ガ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條 政府第二條ノ許可又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ液體燃料委員會ノ議ヲ經ベシ液體燃料委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 人造石油製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ人造石油製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

シタルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 人造石油製造會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタルトキ

二 第十三條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

四 第十五條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十五條 人造石油製造會社ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ、本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ

タルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故  
ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ  
第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發ス  
ル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者  
ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他  
ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成  
年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定  
代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成  
年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ  
付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營  
ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ命令  
ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ規定ニ拘ラズ  
其ノ事業ヲ營ムコトヲ得  
第十五條第一項第三項及第二十四條乃至  
第二十六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人  
造石油製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス  
石油業法第八條第一項中「石油業委員會」  
ヲ「液體燃料委員會」ニ改メ同條第二項ヲ  
削ル

〔政府委員村瀬直養君演壇ニ登ル〕

○政府委員(村瀬直養君) 只今議題トナリ

マシタ帝國燃料興業株式會社法案、竝ニ人  
造石油製造事業法案ニ付キマシテ、其ノ提  
案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、  
抑、液體燃料ハ産業上竝ニ國防上必要缺ク  
ベカラザル基礎的資源デアリマスガ、我が  
國ハ遺憾ナガラ石油資源ニ乏シク、國內産

油額ハ昭和十年ニ於テ約三十八萬「キロ」デ  
アリマシテ、總需要量約四百六十七萬「キロ」  
ニ對シ、僅カ一割ヲ充スニ足ラズ、大部分ハ  
英米等ノ諸外國カラ、原料又ハ製品トシテ  
輸入ヲ致シテ居ル有様デアリマス、而モ逐年  
著シキ需要増加ノ趨勢ニアリマスルノデ、  
此ノ外國依存ノ我が石油事情ヲ打開シ、液體  
燃料ノ自給ヲ促進致シマシテ、産業ノ發展  
ト國防ノ安固ヲ期シマスルコトハ、現下內  
外ノ情勢ニ鑑ミマシテ、最モ急務デアルト  
信ズルノデアリマス、固ヨリ液體燃料ノ自  
給促進ノ爲ニハ内外石油資源ノ確保開發ヲ  
圖ルト共ニ、本邦石油業ノ統制アル發展ヲ  
講ズルノ必要ナルコトハ多言ヲ要シナイ所  
デアリマスルガ、國內石油資源開發ノ實績  
及ビ世界石油資源分割ノ現情ニ於キマシテ  
ハ、液體燃料ノ供給ヲ此ノ方面ニノミ俟ツ  
コトハ困難デアリマシテ、更ニ天然石油以外  
ノ原料カラ、人工的ニ液體燃料ヲ製造スル所  
ノ、人造石油製造事業ノ本格的確立ヲ圖リ、  
又代用燃料ノ使用ヲ普及セシメマシテ、是  
ガ供給ヲ確保スルト共ニ、一面各種燃料ノ  
合理的利用ノ方策ヲ講ジ、燃料消費ノ節約  
ニ付キ十分ノ考慮ヲ拂フニ非ザレバ、結局  
其ノ十分ナル效果ヲ期待スルコトヲ得ナイ  
ノデアリマス、而シテ是等諸般ノ施設ノ實  
施ヲ考慮スルニ當リマシテハ、平戰兩時ニ  
於ケル燃料供給ノ趨勢ヲ勘考シ、内外地及  
滿洲國ヲ通ジ、各種燃料ニ互テ綜合的ナル  
國策ヲ樹立シ、是ガ計畫的遂行ヲ期セナケ  
レバナラナイト存ジマス、政府ニ於キマシ

テハ右ノ見地ニ基キマシテ、從來ノ施設ヲ  
擴充整備スルト共ニ、各方面ニ互リ諸般ノ  
施設ヲ實施セムトスル考デアリマス、即チ  
其ノ一方策ト致シマシテ、揮發油ニ「アル  
コール」ヲ混入使用セシムルノ制度ヲ創設  
セムトシ、既ニ揮發油及「アルコール」混用  
法案ヲ提案致シタ次第デゴザイマスルガ、  
特ニ我が國ノ液體燃料供給ノ趨勢ニ鑑ミマ  
シテ、其ノ補給ヲ確保スル爲ニハ、人造石  
油製造事業ノ急速ナル振興確立ヲ圖リマス  
コトガ、最モ緊要且有效適切ナル方策デア  
ルト考ヘルノデアリマス、人造石油製造事  
業ノ急速ナル發達ヲ企圖スルニ付キマシテ  
ハ、幸ニ人造石油ノ原料タル石炭ガ我が國  
ニ於テ相當豐富デアリ、且友邦滿洲國ニ於  
テモ石炭資源ニ恵マレテ居リマスルノデ、兩  
國ヲ通ジテ綜合的ニ本事業ノ確立ヲ圖ル方  
針デアリマス、而シテ本事業振興計畫ノ目標  
ト致シマシテハ、液體燃料中特ニ主要ナル  
揮發油及重油ノ製産ニ重點ヲ置キ、日滿兩  
國ヲ通ジテ差當リ七箇年計畫ヲ以テ、各、年  
產百萬「キロ」ヲ製産セシメムトスルモノデ  
アリマス、申ス迄モナク本事業ハ全ク新規  
ノ事業デアリマシテ、是ガ爲ニハ多大ノ努力  
ヲ要スルノミナラズ、今後巨額ノ資金ヲ必  
要ト致シマス、併シナガラ我が國石油事業  
ヲ十分認識スルニ於キマシテハ、官民一致  
大決意ノ下ニ、之ガ振興助長ニ邁進セネバナ  
ラスト確信スルノデアリマス、而シテ前述  
ノ人造石油「二百萬「キロ」ノ製産計畫ヲ遂行  
スル爲ニハ、約七億圓ノ資金ヲ必要トシ、

其ノ圓滑ナル調達ニ對シテ適當ナル援助ヲ  
與ヘナケレバ、到底所期ノ目的ヲ達成スル  
コトハ困難ト考ヘルノデアリマス、仍テ政  
府ニ於キマシテハ、其ノ資金ノ圓滑ナル調  
達ニ援助ヲ與フルト共ニ、所期ノ計畫實現  
ヲ促進スルガ爲ニ、茲ニ半官半民ノ資本組  
織ニ依ル資本金一億圓ノ特殊會社ヲ設立セ  
シメ、政府ハ之ニ對シ五千萬圓ヲ出資スル  
ト共ニ、配當補給、社債ノ元利支拂ノ保證、  
租稅ノ免除等、特別ノ保護助成ヲ與ヘ、且  
周到ナル指導監督ノ下ニ、資本金及社債ヲ  
以テ人造石油製造事業ニ對スル投資、其ノ  
他ノ事業ヲ經營セシムル爲メ、帝國燃料興  
業株式會社ヲ制定スルコトト致シマシタ  
次第デアリマス、更ニ之ト同時ニ本事業ノ重  
要性ニ鑑ミマシテ、本事業ヲ政府ノ許可事  
業トシ、其ノ統制アル發達ヲ圖ルコトト  
シ、又獎勵金ノ交付、租稅ノ免除等ノ保護  
助成ヲ爲スト共ニ、政府ノ指導監督ヲ加ヘ  
マシテ、事業ノ合理的經營ヲ促進シ、帝國  
燃料興業株式會社ノ運營ト相俟ツテ、帝國  
確立ヲ期スル爲メ、人造石油製造事業法ヲ  
制定スルコトト致シマシタ次第デアリマス、  
以上ガ今般帝國燃料興業株式會社法案及人  
造石油製造事業法案ヲ提出致シマシタ次第  
ノ大要デゴザイマス、何卒御審議ノ上、速  
カニ御協贊ヲ賜ハラムコトヲ切望シテ已マ  
ザル次第デゴザイマス

○子爵池田政時君 只今上程サレマシタ帝

國燃料興業株式會社法案外一件ハ重要ナル  
法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別委員ノ

數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

帝國燃料興業株式會社法案外一件特別委員

公爵一條 實孝君 侯爵中御門經恭君

伯爵堀田 正恒君 男爵坂本 俊篤君

子爵大久保 立君 子爵井上匡四郎君

子爵保科 正昭君 中川 健藏君

三井清一郎君 男爵渡邊 汀君

男爵伊藤 文吉君 倉知 鐵吉君

下出 民義君 久恒 貞雄君

松本勝太郎君 濱口儀兵衛君

金成 通君 大谷 尊由君

○議長(公爵近衛文麿君) 本日委員長ヨリ報告ガアリマシタ防空法案ヲ、此ノ際議事日程ニ追加シテ議事ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、委員長西郷侯爵

防空法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十二年三月三十日

委員長 侯爵西郷 從德

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔侯爵西郷從德君演壇ニ登ル〕

○侯爵西郷從德君 防空法案特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、防空法案特別委員會ハ昨二十九日、竝ニ本日午前中ニ開會ヲ致シマシタ、本法律案ハ一方時局ニ直面シ、他方ニハ各地ニ防空演習等モ既ニ行ハレテ居リマスル爲ニ、其ノ必要ヲ生ジマシタモノデゴザイマシテ、本法案ハ平戰兩時ヲ通ズル法案デアリマスガ故ニ、立法困難ナル上ニ、國民性ハ勿論、其ノ他ノ事情ニ於テモ諸外國ニ現在スル法規ヲ其ノ儘利用スルコトヲ得マセヌモノデアリマス、且非常ニ大ナル法案デアリマスガ、法文ノ中ニハ大キナ事ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應シテト云フ言葉ガアルダケデ、其ノ他ハ審ロ防空演習法案ト云フヤウニ感ジラレマスノデアリマスガ、此ノ法案ニハ多ク之ニ伴フ勅令ガ出來テ、其ノ上ニ一種ノ教科書ノヤウナモノデモ出來ナケレバ、實際ノ役ニ立チ兼ネルモノデゴザイマシテ、其ノ他ニモ尙國防上ノ意味ニ於ケル防空ト致シマシテ、陸海軍ノ關係ハ勿論民間ノ航空、重要ナル工場等ノ分散トカ、或ハ各種術工物ニ關スルモノトカ、都市ニ於テ空襲ヨリ生ズル被害ノ豫防減少等、就中咄嗟ノ場合ニ於ケル考慮等ヲ含ミマシテ、幾多ノ問題ヲ生ジマスノデ、委員ト政府委員トノ間ニ是等ノ點

ニ付キマシテ、細密ニ互リマシテ質疑應答竝ニ意見ノ交換ガ行ハレマシタカラ、是等ハ速記録ニ付テ御覽ヲ願ヒマス、討論ニ入リマシテ、戰時ヲ合ム案トシテハ適切デナイト云フ論モ出マシタガ、勅令其ノ他ニ於テ十分政府ノ注意ヲ希望スレバ、此ノ原案デ宜シイト云フコトニナリマシテ、賛成者ガ多數デアリマシタ、特別委員會ハ原案通り可決ヲ致シマシタ、終リ

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案全部委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案全部第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 委員長ヨリ報告ノアリマシタ海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案ヲ、此ノ際議事日程ニ追加シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十二年三月三十日

委員長 公爵島津 忠承

貴族院議長公爵近衛文麿殿

○公爵島津忠承君 海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案

ノ特別委員會ニ於ケル經過並ニ其ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ本日法案ノ付託ヲ受ケマシテヨリ直チニ開會致シマシテ、政府當局ノ説明ニ次ギマシテ、委員諸君ハ慎重審議ヲ重ネラレタノデアリマス、本案ノ趣旨ハ、先刻提出セラレマシタ際、本議場ニ於キマシテ拓務大臣ヨリ述べラレマシタカラ、之ヲ省略致シタイト存ジマス、今其ノ質疑ノ中主ナルモノヲ申上ゲマス、ト、ブラジルノ移民問題ノ現狀、移民ノ訓練其ノ他新會社重役ノ選任等ニ關スルモノデアリマシテ、之ニ對シマシテ政府委員ヨリソレソレ答辯ガゴザイマシタ、尙新會社設立ノ上ハ廣ク一般邦人ニ對シテモ金融其ノ他ノ利便ヲ均霑セシムルヤウ之ヲ指導サレタイトノ希望ニ對シマシテ、政府委員ヨリ其ノ希望ニ副フベキ旨ノ答辯ガゴザイマシタ、次イデ討論ニ入りマシテ、委員ヨリ贊成意見ノ發表ガアリマシテ、引續キ採決ノ結果、全會一致本案ハ可決セラレマシタ次第デアリマス、甚ダ簡單デゴザイマスガ、以上御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

昭和十二年三月二十九日 委員長 子爵秋月 種英 貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及一ハ特別委員修正)

大正十二年法律第五十二號中左ノ通改正

第一項中「昭和十二年十二月三十一日迄」ヲ「昭和十七年十二月三十一日迄」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔子爵秋月種英君演壇ニ登ル〕

○子爵秋月種英君 只今日程ニ相成リマシタ大正十二年法律第五十二號中改正法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、委員會ハ二十四日、二十五日、二十九日ノ三回ニ互リマシテ、慎重審議ヲ致シマシタノデゴザイマス、本案ハ極メテ簡單ナ法案デゴザイマスケレドモ、多年懸案ニナツテ居リマス問題デゴザイマスノデ、今日迄取り來リマシタ經過ヲ極メテ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、此ノ法律案ハ大正七年ニ高等試験令ガ制定ニナリマシテ、受験ニ付キマシテ學歷ノ資格ガ設ケラレマシタノデゴザイマス、所ガ從來明治二十六年司法省令辯護士試験規則ニ依ル試験ハ受験資格、學歷ノ資格ガアリマセヌノデ、此ノ高等試験令制定ニナリマシタ爲ニ、受験ヲスルコトガ出來ナイヤウニナリマシタノデ、同施行令ニ依リマシテ五年間其ノ試験ガ延期ニナリマシタノデゴザイマス、所ガ

其ノ五年ノ終リ、即チ大正十二年ニ衆議院案ト致シマシテ、司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律案、斯ウ云フモノヲ提出ニナリマシテ、此ノ案ガ成立致シマシタノガ所謂五十二號ノ法律案ナノデゴザイマス、所ガ其ノ後昭和二年ト昭和七年ト二度延期ニナツテ居リマシテ、ソレヲ此ノ度又五年間延期ヲシタイ、斯様ナ意味ノ法律案ガ此ノ度ノ改正案ナノデゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ政府當局ノ御出席ヲ求メマシテ、受験者ノ數、受験者ノ年齢、又毎年合格者ノ率、又ハ此ノ法案ヲ延期スベキモノカドウカ、又ハ他ニ適當ナ根本的方法ハナイモノデアラウカト云フヤウナコトニ付キマシテ質疑應答ガゴザイマシテ、三回ニ互リマシテ懇談的ニ審議ヲ致シマシタノデゴザイマス、質疑モ終リマシタノデ討論ニ入りマシテ、討論ニ於キマシテ或一委員ヨリ修正案ヲ御提出ガアリマシタ、規定ノ贊成者ガアリマシテ、其ノ案ガ成立致シマシタノデゴザイマス、其ノ修正案ト申シマスノハ五年延長スルノヲ四年、即チ昭和十六年十二月三十一日迄延期スル、斯様ナ修正案ト希望條件ヲ附シテ此ノ案ヲ修正案通リ決定シタイ、斯様ナ動議ガ出マシタノデゴザイマス、四年ニ短縮致シマシタノハ、是ハモウ既ニ根本的解決ヲシテ、當然打切りニナルベキモノデアアルノニ、未ダニ其ノ運ビニ至リマセヌノハ實ニ不都合デアラカラ、サウカト申シマシテモ、實際此ノ受験者ノ状態ヲ考ヘマシテモ、既ニ毎年々々其ノ數ハ非

常ニ減ジテ居リマススケレドモ、マダ相當殘ツテ居リマスノデ、ソレデ左様ニ多年受驗ノ爲ニ勉強モシ、且又非常ニ熱心ナル状態デアリマスノニ、從來認メテ來テ居ルノニ、此ノ制度ヲ今認メマセズニ、所謂既得權トモ思ハレマス資格ヲ失ハシメルト云フコトハ、一面思想上ニモ惡影響ヲ及スヤウナ處方未ダニ存シテ居リマスノデ、四年ヲ適當トスルト云フヤウナ御意見デアッタノデアリマス、希望條件ト致シマシテ二ツゴザイマス、ソレヲ朗讀致シマス、一ツハ

本法ニ定メタル期間ノ延長ハ今回ヲ以テ最終トシ將來更ニ延長スルコトナキヤウ政府ニ於テ善處セラレムコトヲ望ム

是ハ此ノ打切リト云フコトヲ確カニシテ貰ヒタイ、併シナガラ今申シマシタヤウニ、既得權ヲ失ハシメルト云フヤウナコトデゴザイマスカラ政府ニ於カレマシテ十分注意ヲサレマシテ、適當ナ方法ヲ御研究ニナリマシテ、將來憂ノナイヤウニ善處セラレムコトヲ望ム、斯様ナ意味デゴザイマス、モウ一ツハ

本法施行ニ當リテハ辯護士ノ素質ノ低下ヲ來スコトナキヤウ特ニ留意セラレムコトヲ望ム

是ハ先程申シマシタ第一回ニ延期ニナリマシタ最終ノ大正十一年ニ於キマシテ、千人餘リモ合格者ガアリマシタ爲ニ、非常ニ非難ノ聲モ起リマシタヤウナ次第デゴザイマス、且又現在一般的ニ申シマシテモ、辯護

士ノ素質向上ト云フコトヲ叫バレテ居リマス時デゴザイマスカラ、本法ノ試験ヲ施行セラル、ニ當リマシテハ十分當局ニ於テ注意シテ、左様ナ非難ノ起ラヌヤウニシテ貰ヒタイ、斯様ナ意味デゴザイマス、採決ニ入リマシテ、修正案竝ニ希望決議案ハ全會一致ヲ以テ可決相成リマシタ次第デゴザイマス、甚ダ簡單デゴザイマススケレドモ、餘リ時間モ遅レマシタカラ、此ノ程度デ報告ヲ終リタイト存ジマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案全部委員長ノ報告通りデ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案全部第二讀會ノ決議通りデ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程ハ是ニテ全部終了致シマシタ、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス、日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時五十六分散會

貴族院議事速記録第二十七號

正誤

頁 段 行 誤

三五 一 二 三三 軍人ニ勳章ヲ 軍人ニ金鷲勳章ヲ